

平成 27 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

西高 STYLE 西高 PRIDE の創造 (飛翔 さらなる高みへ!!)

個性を尊重した多様な進路の実現 > 国際化に対応した英語力を有し夢を描き実現するキャリア教育の実践 > 世界標準の人権意識の醸成

1. 「未来につながる確かな学力」を育成する
2. 「人権が尊重された学校づくり」を進める
3. 「西高コミュニティ」の充実と発展を図る

2 中期的目標

1. 未来につながる確かな学力の育成とさらなる高みの進路実現

(1) さらなる高みの進路実現をめざして「体育・芸術表現創造コース」を核として、理系・文系・医療看護系への多様な進路ニーズに応えるために教職員が一体となって取り組む。

ア. 学力向上に向けて授業力向上を中心に据え、加えて早朝の自習室開放「朝学」および進学講習「High Level Study Group」、大学生による受験指導「My Study」を充実する。加えて、外部メディアを活用した自己学習「受験サプリ」を導入して総合的な学びのシステムを確立する。

イ. 進路指導部・学年団が一体となって希望進路の実現を全力でサポートし、さらなる高みの進路実現を図る生徒が、未来を描き実現できるよう多様性に対応した学力向上に Try する (習熟度別授業、個に応じた補講習等の考究・実施)。

イ. 外部人材によるキャリア講演会、先輩による進学講演会等によりキャリア意識を醸成する。

エ. 「アートスタジアム」(H24. から続く芸術コース・文化部の発表会) をさらに充実させて大勢の人前で発表することで表現力を養う。

(2) 「わかる授業、魅力ある授業」をめざした授業改善を充実・発展させる。

ア. 授業アンケートを有効に活用して授業の改善点を確認し発展的に授業改善を行う。

イ. ICT を活用した授業をさらに推進し多面的に生徒の理解度を高める (ICT 授業のスキルを教員相互で共有する)

ウ. 全員参加型の研究授業を行い、併せて校内の研究授業を充実させる。

エ. わかる授業を充実させるためにユニバーサルデザインを取り入れた授業を考究する。

オ. 教職員が外部機関や他校の研究授業・研修に積極的に参加するよう奨励し成果を共有する。

(3) 国際化に対応した英語力を身に付け夢を描くキャリア教育の推進に取り組む (英語力とキャリア教育の充実)

ア. 海外の修学旅行等の受け入れや留学生との交流を図り肌で感じる国際教育を実践する。併せて英検受験を奨励し英語の技能を向上させる。

イ. 高い志を持った勤労観・職業観を育成するため、先輩や外部人材から生の声を聴かせる (実感できるキャリア講演会の実施)

(4) グローバル化に対応した人権意識を養成する。

国籍、性、障がい、年齢、地域等の差別意識を排除し共に協力して考え行動できる生徒を育成する。

2. 地域と共に育ち地域で活躍する人づくり 「西高コミュニティの充実」

(1) 開かれたクラブ活動、学校行事で一層の地域交流を行う

卒業生、地域人材、大学生などの外部人材を積極的に発掘活用する。また、中学生を招いた大会である「西高カップ」を継続し地元中学校との連携を深める。加えて、近隣小学校の児童を対象としたスポーツキッズプログラム (地域、小中学校を含めた組織的な取り組み) を発展させる。

(2) 地域貢献活動やボランティア活動を推進する

外部の方からも「西高はきれいで、気持ちのよい挨拶ができる」と言ってもらえるよう「美化運動」や「あいさつ運動」を実施する。

(3) 異校種交流の一層の充実と発展を行う

小・中学校 (福泉南中学校、福泉中央小学校、桃山台小学校)、泉北高等支援学校との連携交流を充実させることで、お互いの学校の理解を深め小・中高が一体となって生徒の成長を見守る。

(4) 西高の取り組みを積極的に発信する。

昨年一新した広報媒体 (ホームページ、パンフレット) をさらに内容を充実し学校説明会・中学校訪問に積極的に活用することで西高の魅力を伝える。

3. 西高が一体 (All 西高) となり元気で躍動的な組織運営と積極的な人材育成

(1) All 西高でめざす学校像に向けベクトルを合わせて取り組む

(2) 若手人材の教師力向上

フレッシュミーティング (H23 より実施の経験の短い教員を対象にした研修会) をより充実させる。

ア. 授業力向上に向けて ICT の活用やユニバーサルデザインを用いた表現力、自主性を育成するアクティブラーニングを活用した授業に挑戦する

イ. 中堅・若手教員の交流を促進しチューター制を活用した OJT を行う

(3) 課題のある生徒や要配慮生徒を組織的に支援する

ア. 教育相談委員会と学年団が連携し、担任が適切に課題のある生徒に対応できるよう情報を共有し丁寧な支援を行う。

イ. SC (スクールカウンセラー) と連携を密にして、不登校気味や抑うつ傾向にある、こころに課題を抱える生徒・保護者の良き相談者、アドバイザー機能をさらに高めて中退防止につなげる。

ウ. 教育相談室を充実し相談者やその他課題のある生徒にとって安心できる安らぎの場とする。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 27 年 12 月実施分]	学校協議会からの意見
<p>■満足度：生徒に対する学校教育自己診断のアンケートによれば「学校は楽しい」の項目で 80.9%が肯定的な回答をしており満足度が高い。その背景には「学校の部活動は、盛んである」84.2%、「西高祭やクラスマッチなどの学校行事に積極的に関わっている」70.8%の肯定的な回答に見られるように、部活や学校行事に仲間とともに頑張ることで達成感を味わい充実した高校生活を送っていることが伺える。■特色づくり：普通科の特色づくりの一環として平成 22 年度から設置した「体育・芸術表現創造コース」においても例年実施している音楽・美術・書道の発表会であるアートスタジアムも 5 回を数え、年々来場者も増加し内容も充実している。体育コースにおいてはプール学院大学と高大連携授業「スポーツ概論」において同大学教授による授業が年間と通じて設定されている。コースに所属する生徒の専門性が高まり一定の成果を上げている。また、カリキュラムにおいて選択の幅を広げ、看護・医療系に進学を希望する生徒にも有利になるようにきめ細やかな対応をしている。■学校生活：学校生活の基本である「落ち着いた教育環境」の実現に関して「校則やマナーを守っている」と答えた生徒は 2.3p 向上して 81.3%に達した。生活指導を適切に行うと共に不登校や心に課題を持つ生徒に担任、学年団に加えて教育相談委員会が組織的かつ適切に対応しており安心・安全の学校づくりに一定の成果が見られた。進路に関して 1 年次より 3 年間を通じたキャリア教育を行った結果「生徒の興味・関心・適正・進路に応じて選べるコースを設けている」の 70.7% (3.3p 向上) 進路の情報提供を含め、将来の進路や生き方について考える機会がある 63.4% (3.2p 向上) に見られるように前年比改善が見られた。■授業力・学力向上：生徒の学力向上に資する授業力に関して「わかりやすい授業が多い」43.8%「教え方に様々な工夫をしている」41.8%は半数に届かなかったものの、わかりやすい授業 (H23.31.7%→H24.34.5%→H25.46.2%) 工夫された授業 (H23.29%→H24.31.2%→H25.43.1%) 共に 3 年連続で向上している。2 年前に全教室に設置したプロジェクターを使用する教員が 75%に達しており ICT に対する教員の意識は高まっている。今年度のアンケート結果は足踏み状態になったがプロジェクター導入時の反動と考えられる。最終的に 60%以上の生徒から授業に関する肯定的な支持を獲得することをめざしており、多様な進路に対応できる学力保障の点で堺西高校としての基準である「西高 Standard」についての議論が各教科で芽生え始めている。学力向上および進路実現については授業の充実とともに予習・復習をしている 23.5% (1.8p 下降) や自宅学習時間 2 時間以上 9.7%、1 時間以上 11.1%のさらなるかさ上げに加えて約 3 割に及ぶ自宅学習時間なしの層の改善に向けての取り組み強化が喫緊の課題である。■保護者の意見：保護者の回答では、生徒と同様に学校に対する満足度は 77.1%と高い。部活 (77.3%) や学校行事 (81.8%) に関する肯定的な意見が多く、生活指導 (75.7%) や進路指導 (66%) に対する一定の支持もある。反面、学校設備の老朽化に伴い学校施設・設備教育環境の満足度は 9.7p 下降して 44.1%となった。学校の施設・設備に関して P T A が中心となり大阪府教育委員会に対してトイレ改修の署名運動や申し入れを行う等、保護者の学校施設・設備に対する意識が高まった。緊急性が高く教育効果が期待できる施設・設備改修を教職員のコンセンサスの下、教育環境整備計画 (案) を P T A ・同窓会 (紫友会) ・後援会に提案し一定の支援・協力が得られる方向性が顕在化している。来年度に正式に教育環境整備が実現した暁には、運営面で教職員が一丸となり、さらなる堺西高校の教育力向上が期待される。反面、昨年に保護者の回答で最も向上した「他の学校にはない独自の教育活動に取り組んでいる」(60.9%) の項目は 10.7p 下降して 50.1%となった。残念な結果となったが、一昨年にプロジェクターを導入した反動と学校設備老朽化に対する意識の高まりがあいまってのことで、と思われる。この項目においても、従前の堺西高校の強みを伸ばすと共に学校施設・設備の充実と新たなとりにくみに挑戦することで改善を図りたい。</p>	<p>一律の対応となりますが教育相談実習生を活用して丁寧な対応を行います。 Q：全員参加型の研究授業とは何ですか？ A：今年で 3 回目となりますが 6 限目授業で 1 クラスだけ残して全教員がその研究授業を見学するものです。 Q：自己診断の生徒アンケートから「分かりやすい授業」が 3 年連続着実に向上している。先生方の努力の成果である。また、年 1 回とはいえ全員参加型の研究授業は西高独自の取組みであり、教育センターの指導主事のアドバイスや教科を超えた先生方の意見・感想を聞くことで発表者は勿論、参加している先生方全員の動機づけや参考になると思う。西高は若手の先生が増えている印象がある。 若手教員向けの校内研修を活性化させることは大切であり、授業力に関しては現場で力をつけていく、つけさせることが必須である。教員は職人と一緒であり授業方法等を「盗む」ことが重要。学校はそういう機会を設定し他者の授業を観る機会を増やすことで伸び代がたくさんある若い教員を育てて欲しい。さらに ICT を活用した授業をさらに充実発展させて下さい。ICT は視覚聴覚に訴えることで生徒の興味関心を引くツールとして有効なのでベテランの先生方にも「今さら」と言わず積極的に活用してほしい。 Q：授業に加えて家庭学習時間をいかに増やすのか？家庭学習時間が極めて少ない層をいかに減少させるのか？ A：宿題の量によりと受験サプリの自己学習により家庭学習時間の増加を図りたい。</p> <p>第 2 回目 (11 月 26 日) 第 1 回の学校協議会で話題に上った全員参加型の研究授業に参加して頂いた。 社会科の教員から世界史「アメリカの独立」をテーマに会議室で研究授業を実施。当該クラス以外は授業を無くして、教員全員と大阪府教育センター指導主事に授業を観てもらい研究討議を行った。 授業の狙いは、講義型ではなく事前にパート毎に調べ学習をおこない、アメリカ合衆国を構成する人々がそれぞれの立場 (英国系・スペイン系の移民、ネイティブアメリカン、黒人等) からアメリカの独立について意見を述べ合った。 下調べは、先生から各班長だけで良いとの指示であったが、3 連休にも拘らず約半数 (20 人ほど) の生徒が自主的に図書館で行った。また、ディベートにより意見を述べることでテーマに関する理解が深まった。 先生はナビゲーターに徹し敢えて結論は出さない。生徒が主体となり教えあい「世界の動きの中でアメリカが独立できたことを理解する」とのテーマは達成できた。 各先生方から「どのように事前学習を行わせたのか」「つい自分から話してしましそうなところをナビゲーター役に徹していた」「学習指導要領の公平、公正正義をうまく利用していた」「教科は違うがディベートを取り入れた授業にトライしたい」等の活発な意見や質問がありました。 学校協議会委員から「アクティブラーニングに基づく授業であり良かった」「積極的なリーダー格の生徒は良いが消極的な生徒にうまく指導し取り組ませる仕掛けが肝要である」「とても上手い進め方だった。学びの共同体で学ぶ形ができていた」「生徒は意欲的に全員参加の授業ができていた」等の意見を頂き、教育センター指導主事から「ほとんどが正しく発言できていて理解度も高く、よく調べていた様子わかる」「どのように準備していたのか準備期間から観てみたかった」「ここぞという場面でアクティブラーニングを活用して欲しい」「ICT は使いこなさなくてはいけないというのではなく、映すだけでも効果的である」「生徒が自分たちの意見を映したいと思うようになれば生徒にも ICT の力が身につくことに繋がる」等との指導・助言を頂きました。今後の本校のアクティブラーニング型授業が広まる礎になって欲しいと思います。</p> <p>第 3 回目 (3 月 28 日) 平成 27 年度最後の学校協議会で「堺西高校の現状と課題」と題して①学校教育自己診断結果 ②ネット学習環境 (受験サプリア) について ③H27. 進路実績と生活指導の状況について報告を行った。</p>
<p>【学校協議会】 第 1 回目 (6 月 22 日) ① 校長から平成 27 年度学校経営計画を説明、②首席から新たに導入する外部メディアを活用した「受験サプリア」につき説明した。 【委員からの意見及び質疑対応】 委員からの質問を Q 学校の説明を A と表示しています。 Q：新たな取り組みである受験サプリアの内容を先生方が把握していますか？また、タブレットを使用して視聴するようですが先生方はその取扱いに習熟し生徒に説明できるのでしょうか？ Q：受験サプリアは新たな取り組みであり、学校全体の学力向上、支援体制の中に位置づけることが必要であり組織としてのしかけにすることが肝要である。 A：将来構想を考えるトータルプラン検討委員会で受験サプリアを検討し導入した経緯があり従前の受験講習ハイスタ、府大生による受験指導マイスタ、早朝自習室朝学等の自学・自習支援の一環として位置付けて進めているものです。 Q：課題を抱える生徒支援を要する生徒の対応は？ A：府立学校はスクールカウンセラー派遣につき年間 10 回と決められており一</p>	<p>【質疑応答】 学校教育自己診断においては、部活・行事で肯定的評価が高く H27 年度は学力向上・希望進路実現について課題意識を持って取り組んできました。今年度から導入したネット学習環境 (受験サプリア) もその一環であり 180 名を越す参加者を確保できました。また、H28 年度から学習サポート委員会を設置して授業力向上に加えて補・講習体制や多様な学習支援の取り組みを組織的に対応する予定です。他に多様な良い取り組みを行っているにも拘らずとりわけ保護者の反応が薄い結果も見受けられ如何に伝えていくかの指摘も頂きました。進路実績については関大、近大は例年並み関西外大・大阪経済大に例年以上、加えて京都の大学 (同志社女子・京産大・龍谷大) に合格者が出ました。進路指導部長から受験で希望進路をかなえる生徒は授業を大切に最後まであきらめずにトライする生徒が成功している、との分析結果がありました。また、他の委員から西高カップやスポーツ教室等の西高の地域連携の取組みは、生徒の自己肯定感に繋がっており西高らしさの象徴として称賛に値するとの意見がありました。最後に委員長より H28 年学校経営計画で、「英語力+キャリア教育」を掲げられているが、国境を超えて生きていくこれからの子どもたちに不可欠の教育的な視点であると思う。どのように具体策に落とし込むかは教職員が一丸となり実践していただきたい。との助言を頂きました。</p>

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 未来につながる確かな学力の育成と多様な進路の実現	<p>(1) ワンランク上をめざして多様な進路ニーズに応える校内体制の充実</p> <p>(2) 分かる授業・魅力ある授業をめざした授業改善を進展させる</p> <p>(3) 英語力とキャリア教育を併せた取り組みの実践</p> <p>(4) グローバル化に対応した違いを認めあう人権意識を養成する</p>	<p>(1) 「High study」(進学講習)「My Study」(大学生による進学指導) 朝学(早朝の自習室開放)のさらなる充実を図る。学習支援委員会で総合的に学力向上策を検討する ※「受験サプリ」を新たに導入しいつでもどこでも学習できる環境を整える</p> <p>(2) 学校教育自己診断、その他のアンケート等から授業に関するニーズの発掘を行い、ICTを活用した授業やユニバーサルデザインを活用して表現・伝達方法を改善することで授業理解度を向上させる</p> <p>(3) - ①高い志を持った勤労観正しい職業観を育成するため1年次から計画的なキャリア教育を行う</p> <p>(3) - ②英検を奨励し資格取得・学習習慣の確立を支援する</p> <p>(4) 生徒向け人権講演会等で生徒が差別に関する意識を向上させ世界標準の人権意識を養成する。</p>	<p>・進学希望者に対する(進学講習) (大学生による進学指導) 「High study」の参加者の増加を図る(1日平均20名)(H26.春休み22名、夏休み32名) さらに「受験サプリ」を導入し30名以上の利用者を確保する。</p> <p>・学校教育自己診断(生徒用)の「分かりやすい授業」「工夫された授業」に関する項目の肯定的な回答60%以上(H26.分かりやすい48.7% 工夫された授業45.4%) 授業におけるICT活用を10ポイント向上させ70%以上(H26.61%) 外部・卒業生のキャリア講演会3回以上その際のアンケートの肯定的な意見80%以上 英検の受験者+10%と英検2級、準2級の合格者の増加を図る(H26.2級1名、準2級11名) (4)人権講演会後のアンケートにおける肯定的な回答80%以上</p>	<p>「High study」「My study」の参加者は例年並みに止まったが今年導入の受験サプリは1年生を中心に180名以上が参加して当初の目標は達成した(◎)また、一定数を越したことで学力診断テストを無償で実施できた。受講者数は予想以上に確保できたが、その活用度合いに大きな開きがあり今後継続して意識づけ及び活用促進を指導していきたい(○)</p> <p>「分かりやすい授業」「工夫された授業」は目標の60%の肯定率に及ばなかったものの双方ともに45%内外に達した。両項目ともに徐々にではあるが3年連続で向上しており教員の息の長い努力の跡がうかがえる(○)</p> <p>授業におけるICT活用度は75%と目標である70%以上を達成できた。若手の先生だけでなくベテランの先生も授業に活用してくれており学校全体の活用度が向上した(◎)</p> <p>「ようこそ先輩」と題した受験体験談に今年も現役合格者からアドバイスがあり好評を博した。また、ラモス瑠偉に続いて全日本女子バレーボール元監督柳本晶一氏のキャリア講演会も好評でありアンケートの満足度はほぼ100%であった(◎)</p> <p>英検合格者は準2級4人、3級32人が合格したが昨年に及ばず継続して取り組む(○)</p> <p>今年の人権後援会はパフォーマーの在日韓国人チャンヘンさんが講演し生徒の90%以上が感動し肯定的な回答を行った(◎)</p>
2 地域と共に育ち地域で活躍する人づくり 「西高コミュニティ」	<p>(1) 開かれたクラブ活動・学校行事で一層の地域交流を図る</p> <p>(2) 地域貢献ボランティア活動を推進する</p> <p>(3) 異校種連携の一層の充実と発展を行う</p> <p>(4) 西高生徒の地域における評判を高める</p>	<p>(1) クラブ活動「西高カップ」の開催や文化部の地域祭り施設の訪問を行う</p> <p>(2) 西高はきれいで気持ちの良い挨拶ができてい、と言ってもらえるよう、「美化運動」や「あいさつ運動」を展開する</p> <p>(3) 福泉南中学校、福泉中央小学校、桃山台小学校との連携、泉北高等支援学校との交流を行いお互いの学校の理解を深め小中校が一体となって生徒の成長を見守る。 加えて、プール学院大学 桃山学位大学との連携のさらなる活性化を図る</p>	<p>「西高カップ」の参加中学生累計1,000人以上</p> <p>小学生対象のスポーツクラブ(スポーツキッズプログラム、ダンス教室参加者累計500人以上) 近隣小学校教員に出前授業(水泳指導を含む)、AED講習を2回以上実施 美化運動、あいさつ運動を計画的に実施し年回5回以上も清掃活動を行う。 懲戒・遅刻件数の減少 懲戒10件以内、遅刻2,000以下をめざす</p>	<p>西高カップはサッカー24チームの選手指導者コーチを入れて350人の参加があった。例年多くの参加があるソフトテニス堺市、和泉市の中学校を中心に大阪狭山市、富田林市、岸和田市、大阪市から36校の参加があり関係者を含め560名以上の参加があった。バレーボール220名を含めて1,130人の参加があり堺西高校の冠大会として定着している(◎)</p> <p>スポーツキッズプログラム、ダンス教室、バレーボール教室参加者も累計2,440名の参加があり近隣から支持されている(◎)</p> <p>美化運動は年間6回行い梅・美木多駅前清掃ボランティアにも参加した(○)</p> <p>懲戒は年間6件に止まり目標をクリアした。年間遅刻件数は2,519件に上り目標の2,000件を割ることができず課題が残った(△)</p>
3 元気で躍動的な組織運営と積極的な人材育成	<p>(1) all 西高でめざす学校像に向け一体性を持った組織運営を行う</p> <p>(2) 若手人材の教師力を向上する</p> <p>(3) 課題のある生徒や要配慮生徒を組織的に支援する</p>	<p>(1) 進路指導部：教科・学年で計画的な補講習体制を構築する 生活指導部：遅刻指導あいさつ指導を生指、学年が一体で行う</p> <p>(2) 若手教員で授業力を中心にコミュニケーション能力および社会人としての在り方を身につけ共有する</p> <p>(3) 教育相談委員会のさらなる充実を図り教員で課題があるあるいは要配慮生徒の状況を共有し間違いのない対応を行う 加えて、教育相談室や保健室の施設の改善受け入れ態勢を一層高める</p>	<p>進路指導部、学年が一体となって放課後、春夏休みに進路講習を実施する。 進路講習を50分×50コマ以上実施する。(H26.50分×32コマ実施) フレッシュミーティングで検討しグループワークを行う(3回以上)。</p> <p>教育相談委員会5回以上実施し情報共有。適時適切な組織的な対応を行う。 いじめ「0」を持続し、不登校生徒の減少に努める。</p>	<p>3年学年団と進路指導部が一体となり春休み50分×22コマ、夏休み50分×30コマの補講習を行った(○)</p> <p>フレッシュミーティングは3回実施し堺西校のとりくむべき課題とそれに向かって私たちができることを検討した。若手教員の中にはICTを活用した授業や教材開発に関して目を見張るものもありその中から中学校から移籍した先生(世界史)がアクティブラーニングに関する研究授業を行うことが決まった(◎)</p> <p>教育相談委員会を年5回開催し研修会を夏冬に2回実施した。支援を要する課題のある生徒の情報共有及び組織的な対応を実施した。今後も持続した取り組みにより安心安全の教育環境を維持し不登校及び予備軍も含めてケアしていきたい(◎)</p>